世界史B　17仏教の成立

1.ブッダ(B.C.566~486頃、またB.C.463~383頃など)

┌シャカ(釈迦)ムニ---シャーキャ族の「ムニ」(　　)1

├ブッダ(仏陀)　---(　　)2

└ゴータマ(ガウタマ)・シッダールタ ---本名。ゴータマ家のシッダールタ。

・(　　)3で生まれる。現ネパール領。生後七日で母と死別。

・ゴータマ家---シャーキャ族のクシャトリアの身分。カピラヴァストウ城主。

・シャーキャ族---[　　]**4語族**

・また(　　)**5**=修行を完成した人、(　　)**6**=尊敬に値する人 など多くの異名をもつ。

・生没年は、**アショーカ王**の年代との関係によって論じられる。アショーカ王の年代は、およそ前268年即位、前232年没とほぼ確定されているが、ブッダとの年代の間隔については、伝承により異説がある。

(　　)**7説**

・パーリ語による資料、スリランカの『島史』と『大史』は、アショーカ王(B.C.268年即位)を仏滅後218とする。これによればブッダの入滅は前486年頃になる。

(　　)**8説**

・一方、中国に伝わる仏典『十八部論』『部執異論』は、アショーカ王を仏滅後116年とする。これによればブッダの入滅は前383年頃になる。

2, ブッダの生涯

・父シュッドーダナ、母(　　)9の長男として、4月８日(一説に2月8日)にルンビニー園のサーラ樹の下で生誕したと伝えられている。

・生まれてすぐ7歩歩んで「**天上天下(　　)10**」と言ったとされる。

・生母は７日後亡くなる。

・29歳まで何不自由なく王族として生活。結婚し家庭も持つ。

・29歳で(　　)11し、インド北部、前正覚山で修行する。

・35歳のとき東部ビハールの(　　)12の菩提樹の下で悟りを開く。

・以後、各地へ説法の旅を続け、バラーナシー(鹿野苑)に始まり、ジェータバーナ、シュラバスティー(舎衛城)の祇園精舎、ラージギル(王舎城)　の霊鷲山など、(　　)13川中流域での長い旅を続けて、布教活動を行う。

・身分、男女の別なく教えを説く。

・ブッダは、ふるさとへの旅の途中のクシナガラで、２本のサーラ樹(沙羅双樹)の木の間に横たわり、弟子(　　)14に次のような言葉を残して、80歳のとき没したとされる。

「お前たちの為に私が説いた教えと私の制した戒律とが、私の死後お前たちの師となるのである。
それら(　　)15を良くたもち、実践し清浄な行いが長く続くようにめざせ。そのことが、多くの人々の利益・幸福のためになるのである。
諸々の事象は過ぎ去るものである。たゆまず、怠らず、わたしが説いた教法を実践し、修行に励みなさい。

教師の握りしめた秘密の(　　)16はない。

自分はすでに80歳の高齢である。

お前たちは、ただ自らを(　　)17とし自らを依拠として、他人を依拠とせず、法を(　　)17とし、法を依拠として、他を依拠とすることなく修行せよ。」

・法　・聖者　・出家　・王族　・奥義　・北伝　・南伝　・如来　・灯明　・阿羅漢
・悟った人　・唯我独尊　・ガンジス　・ルンビニ　・マーヤー　・アーナンダ　・ブッダガヤ

3,ブッダの思想（プリント参照）

・身は（　　)18⇒「因と縁もまた無常。」

・　四諦 ⇒4つの諦め。苦(くるしみ)のおこる原因と、苦を逃れる方法。

①（　　)19⇒苦の真理。「生は苦である。老は苦である。病は苦である。」

②（　　)20⇒苦の起こり。→欲望、渇愛、執着による。
→次々生まれかわって苦しい生を続ける。「(　　)21」

③（　　)22⇒ 苦の滅。執着を捨てること。
⇒別の言葉では「（　　)23」→渇愛、執着を捨てること。

④（　　)24⇒苦の滅への道 ⇒八つの正しい道。

・ 八正道 ⇒八つの正しい道。

・解脱への道 →2つの極端（　　)25と（　　)26を避ける。

・正見、正思、正語、正業、正命、正精進、正念、正定
→このようにすればだれでも（　　)27の境地に達することができる。

・貪欲(どんよく)　・苦行　・無常　・中庸(ちゅうよう)　・解脱(げだつ)　・輪廻(りんね)
・涅槃(ねはん)　・道諦(どうたい)　・苦諦(くたい)　・集諦(じったい)　・滅諦(めったい)

釈迦像(ガンダーラ)

ルンビニ

釈迦誕生図

ブッダガヤ